

5 国連防災世界会議への参画

5-1 会議の概要

阪神・淡路大震災から10年を迎えた神戸で、「国連防災世界会議」が神戸ポートピアホテルを会場として、2005年1月18日から22日まで開催された。国連加盟国のうち168カ国から、政府・国連機関、NGOなどから約4000人が参加し、政府間会合の他、テーマ別会合などで活発な協議がなされた。

今回の会議の成果としては、災害に強い国・コミュニティを構築することを前提に、今後10年間に取り組むべき5つの優先分野をまとめた「兵庫行動枠組み」が採択され、2015年までに1) 防災の統治力、2) 災害リスクの特定と早期警報、3) 防災教育、4) 災害リスクの軽減、5) 復旧への備えの各分野における取り組みを明示した。

また、会議の成果を全世界に伝えるメッセージとして、「兵庫宣言」が採択され、災害に強い国づくりのために、国内外を問わず、個人から団体・組織などあらゆるレベルにおいて災害予防の文化を構築し、国際的な協力を強化することが呼びかけられた。

アジア防災センターは、各テーマ別セッション、リージョナルセッション、ポスターセッション、総合防災展、またパブリックフォーラム等に積極的に企画・参加した。

5-2 テーマ別セッション

「横浜戦略とその行動計画」の見直しにより、次の10年間の優先項目として特定された5つのテーマ(1) ガバナンス: リスク削減に向けた制度的・政策的枠組み、2) リスク特定、評価、監視、早期警報、3) 安全性と回復力の文化構築のための知識、革新、教育、4) 潜在的なリスクの削減、5) 適切な対応への備え) について協議するものである。これらのセッションの議論成果は、世界会議の全体会合に報告された。

また、世界会議直前に発生したインド洋の地震と津波災害の検証を目的とした「インド洋災害に関する特別セッション」が追加で実施された。

5-2-1 復興セッション

1) 開催日

1月19日(水)